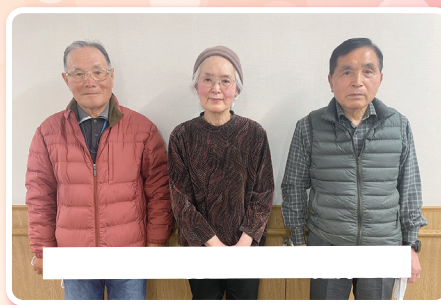


広報部会員による就業現場レポート(第8回)

「おはようございます」「お元気ですか？」

「優しさと笑顔を届ける」声かけ訪問

ひとり暮らしの70歳以上の方の「安否確認」や「孤独感の緩和」のため、自身も高齢者であるシルバー人材センターの会員が活躍されているのをご存じですか？「責任感」と「思いやり」に溢れた3名の会員の方にお話を伺いました。



声かけ訪問とは…ひとり暮らしの高齢の方の安否確認(江東区からの受託事業)。週1～3回、会員が訪問して乳酸菌飲料を1回1本手渡しします。不在時には「不在連絡票」を投函し、1週間程度不在等の場合には、区を通じて緊急連絡先に連絡します。

利用者数 約420名 担当会員数 約74名 訪問回数 延58,048回(令和2年度)

就業日 週1～3日(月・水・金) 配分金 85円(1軒あたり) 救急車要請 3回(令和3年度)



Q.1 この仕事をするようになったきっかけは？

退職後、釣りばかりして過ごしていましたが、幼い頃からお世話になった江東区で、何かお役に立つことはないかとシルバー人材センターを訪ねました。そこで「半分ボランティアと思ってやってください」と、この仕事を紹介していただき、10年以上になります。

Q.2 この仕事をやってみて良かった点、やりがいを感じるときは？

ほとんどの利用者が、私たちが訪問してくれるのを心待ちにされています。その方々が元気であることの確認ができて「ありがとうございます」「気を付けてくださいね」などと声をかけていただくと嬉しいですね。

人と接することができ、感謝もされます。また、自分の健康にも繋がると思うので良かったです。



Q.3 仕事上での苦労話などありましたら、お聞かせください

やはり天気ですね。風の強い日や寒さが厳しい日は大変です。

雨の日は大変です！私は自転車を使っているので、特に冬の雨の日には手が痛くなって辛いです。

利用者とのコミュニケーションは難しいです。挨拶だけではと思い、何か話題を用意して訪問するようにしています。

Q.4 この仕事をやってみたいと思う会員に対してメッセージをお願いします

やはり気持ちが大切だと思います。

私も「人の為になれば」という気持ちで仕事をしています。

3名の会員の方のお話を伺って

訪問先の利用者から突然「救急車を呼んでください！」と頼まれ、それで一命をとりとめたこともあったとか。事務的にただ乳酸菌飲料を手渡しするのではなく、利用者の安否を確実に把握したうえで、優しく話の受け答えをしたり、地道に仕事をされている姿にただただ頭の下がる思いがしました。

報酬よりもボランティアの部分が大きく目立たない活動ですが、今の時代に欠かせない大事な仕事をされていることがわかりました。